

山口県立萩美術館・浦上記念館

H A G I |

HAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE

萩

117

AUTUMN ISSUE
2025



コレクション展（浮世絵）

展示室1（本館1F）

うたがわくによし

歌川国芳 II

【会期】10月28日(火) — 11月24日(月・祝)

歌川国芳(1797-1861)は、同じ歌川派の国貞や広重と並び、幕末の浮世絵界をリードした絵師です。水滸伝ブームに乗じた連作が大好評となり、「武者絵の国芳」として不動の人気を博しました。その後は幅広い画題を手がけ、卓越した個性を発揮します。

今回は、洋風表現を駆使した近代的な感覚にあふれる風景画や、市井の女性たちの屈託ない色香を描いた美人画、芝居の演出も描き込んだ役者絵など、定番の画題を中心に国芳の魅力をご紹介します。



歌川国芳「縞揃女弁慶 緑日の土産」大判錦絵
弘化元年(1844)

展示室1（本館1F）

ちゅうしんぐら

忠臣蔵

【会期】11月26日(水) — 12月21日(日)

元禄15年(1702)12月、大石内蔵助ら赤穂浪士47名が、本所の吉良上野介の屋敷に討ち入り、亡君・浅野内匠頭の恨みを晴らすという事件が起こります。この赤穂事件は人形浄瑠璃や歌舞伎に脚色され、さまざまな演目が上演されていきます。なかでも、寛延元年(1748)に人形浄瑠璃として初演された「仮名手本忠臣蔵」は、あだうに関わる人々の葛藤や苦悩、人間の生死、恋愛を丁寧に描いて圧倒的な人気を博し、浮世絵の画題としても定着していきました。今回は、浮世絵に描かれた「忠臣蔵」をお楽しみいただきます。



喜多川歌麿「忠臣蔵 五段目」大判錦絵
寛政10~11年(1798~1799)頃

コレクション展（東洋陶磁）

展示室2（本館1F）

こはぎ 古萩

【会期】9月30日(火) — 12月21日(日)

萩焼は慶長9年(1604)、萩に入府した毛利輝元^{もうり てるもと}が、文禄^{ぶんろく}の役(1592～1593)を機に朝鮮から渡来した陶工に命じて製造させたのが始まりと伝えられています。以来、萩藩の御用窯として江戸時代を通じて維持され、いつしか「一楽、二萩、三唐津」と謳われるように、茶陶としての名声を確立しました。

日本では、室町時代以降茶の湯が盛んになり、桃山時代には千利休^{せんりきゅう}が確立した「侘数寄^{わび すき}」の理念が茶人たちの間で広く受け入れられました。その結果、茶碗をはじめとする喫茶具の好みにも変化が起こり、それまで重視されてきた天目や青磁といった中国産

の茶碗はほとんど用いられなくなりました。そして、朝鮮半島南部の民窯で焼かれた碗や鉢が「高麗茶碗^{こうらい ちゃわん}」と呼ばれて珍重され、さらにはこれをもとに独自の表現を追求した国内産の茶碗も西日本を中心に作られました。

萩焼はこうした高麗茶碗の系譜を引くやきものとして産声を上げた茶陶でした。そしてその在り方は、のちに侘数寄の美学を濃厚に伝える初期の萩焼茶碗というイメージと結びついて「古萩^{こはぎ}」という呼び名も生み出了。

本展示では館蔵のコレクションのうち、江戸時代の萩焼茶碗を中心にをご紹介します。それぞれに異なる表情と侘びた佇まいをみせる古萩の世界をお楽しみください。



萩三島写茶碗 銘 椎葉 江戸時代前期 当館蔵

茶

室

新里明士

差異を繰り返さず、まだ
Repeat a difference, still

【会期】2025年4月4日(金) — 2026年3月1日(日)

10/2025 ▶▶ 10/26日
※10/20(月)は休館日

観覧
無料

開場時間／9:00-17:00 (入場は16:30まで)

会場／山口県立萩美術館・浦上記念館

◆主催／萩陶芸家協会

◆共催／萩市、山口県立萩美術館・浦上記念館

◆後援／山口県

10/10(金) 15:00 ～ オープニング

萩陶芸家協会設立30周年記念美術館展

令和7年度伝統的工芸品産業支援補助金対象事業

ヤキモノのチカラ

〔お問合せ先〕

萩陶芸家協会事務局 (萩市商工振興課内)

〒758-8555 萩市大字江向510

TEL. 0838-25-3638 <https://hagi-tougei.com>



コレクション展（陶芸）

展示室7（陶芸館1F）

三輪窯 —陶の造形—

【会期】2026年1月17日(土) — 4月27日(月) ※会期末は予定

三輪窯は寛文3年(1663)、萩藩二代藩主毛利綱広によって召し抱えられた三輪忠兵衛利定(初代休雪)に始まります。利定は優れた技量をもつ御雇細工人として藩に仕え、天和2年(1682)に松本村(現・萩市椿東)に居を定めます。そして、元禄13年(1700)には藩命により上洛し、樂家五代の吉左衛門(宗入)より樂焼を学んだと伝えられています。その後、孫にあたる利之(四代休雪)も樂焼修行をおこなっています。

明治維新後は藩の庇護を失うも、大正から昭和初期にかけて三輪休和(十代休雪)が、折からの桃山茶陶の再評価の機運に乗って様々な挑戦を試みました。三重県ゆかりの銀行家で陶芸家でもあった川喜田半泥子との交流もそのひとつです。また、末弟の壽雪(十一代休雪)とともに萩焼伝統の藁灰釉を改良し、「休雪白」と呼ばれる純白で滑らかな釉薬を用いた作品を作り上げたことも特筆されます。

約400年の伝統をもつ萩焼の窯のひとつとして、三輪窯は常に伝統を重んじ、それに甘んじることなく新たな可能性を模索し続けてきたと言えます。本展示ではこうした三輪窯歴代の作品を紹介し、その卓抜した造形をご覧ください。



萩赤楽茶碗 初代三輪休雪 元禄16年(1703) 箱銘 当館蔵

コレクション展（陶芸）

展示室8（陶芸館2F）

萩焼の現在形

【会期】2026年1月17日(土) — 4月27日(月) ※会期末は予定

本展は現在活動する陶芸家の作品を取り上げ、いま、どのような萩焼がつくられているかを紹介するものです。

そこで注目したいのが作陶の経験を重ね、活動の幅も広がりつつある40代～50代の作家です。彼らは、伝統的な萩焼の素材や技を軸としながらも、現代の人々の好みや価値観、そして、自分の思い描く感覚をどのように反映していくか、日々試行錯誤しています。

茶事に用いられる茶道具、日常生活で使われる器などオーソドックスなものにとどまらず、美術的表現を取り入れた作品まで、多様さを見せながら現在も変わりゆく萩焼の現在〈いま〉をご覧ください。



岡田 泰 《淡青釉鉢》 2019年 当館蔵



渋谷英一 《黒彩器 一相一》 2016年 当館蔵

陶芸館は設備改修工事のため休室します

【期間】2025年9月1日(月) — 2026年1月16日(金)

SCHEDULE 令和7年度(10月~12月)

■ 休館日 ★ イベント ◆ ギャラリー・トーク

10

OCT

	1 水	2 木	3 金	4 土	5 日	6 月	7 火	8 水	9 木	10 金	11 土	12 日	13 月	14 火	15 水	16 木	17 金	18 土	19 日	20 月	21 火	22 水	23 木	24 金	25 土	26 日	27 月	28 火	29 水	30 木	31 金
展示室1	★	★	★	★	★																										
展示室2																															
展示室3~6																															
展示室7																															
展示室8																															
特選鑑賞室																															
茶室																															

11

NOV

	1 土 ★	2 日 ★	3 月 ★	4 火 ★	5 水 ★	6 木 ★	7 金 ★	8 土 ◆	9 日	10 月	11 火	12 水	13 木	14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土 ◆	23 日	24 月	25 火	26 水	27 木	28 金	29 土	30 日
展示室1	浮世絵：歌川国芳Ⅱ（～11/24）																							※2						
展示室2	東洋陶磁：古萩（～12/21）																													
展示室3～6	設備改修工事のため休室（～2026.4/3〈予定〉）																													
展示室7	設備改修工事のため休室（～2026.1/16〈予定〉）																													
展示室8																														
特選鑑賞室	喜多川歌麿「山姥と金太郎 煙草のけむり」（11/1～11/30）																													
茶室	新里明土 差異を繰り返す、まだ Repeat a difference, still（～2026.3/1）																													

12

DEC

	1 月	2 火	3 水	4 木	5 金	6 土	7 日	8 月	9 火	10 水	11 木	12 金	13 土	14 日	15 月	16 火	17 水	18 木	19 金	20 土	21 日	22 月	23 火	24 水	25 木	26 金	27 土	28 日	29 月	30 火	31 水
展示室1																															
展示室2																															
展示室3~6																															
展示室7																															
展示室8																															
特選鑑賞室																															
茶室																															

※1 浮世絵:歌川国芳II (10/28 ~ 11/24) ※2 浮世絵:忠臣蔵 (11/26 ~ 12/21)

★ イベント

着物ウィーク in 萩コラボレーション企画
【日時】10月1日[水]~10月13日[月・祝]
【内容】着物で来館された方はコレクション展を団体料金でご覧いただけます。

秋は美術館へ行こう!

①ミュージアムコンサート
【日時】10月11日[土] 15:00~15:45
【内容】箏とピアノが奏でる和と洋のハーモニーをお届けします。

【出演】木原朋子(箏)、杉江慶子(ピアノ)

②開館延長・館内ライトアップ
【日時】10月11日[土] 17:00~19:00
(最終入場18:30)

③ワークショップ「ランタンをつくろう!」
【日時】10月11日[土]
①16:30~17:30 ②18:00~19:00
【内容】紙製のオリジナルランタンを作ります。
【定員】各回16名(要事前予約)

開館記念日

【日時】10月14日[火]
【内容】日頃の感謝を込めてコレクション展を
入場無料(先着50名様)

教育・文化週間

【日時】11月1日[土]~7日[金]

【内容】観覧無料

オリジナルペーパーバックをつくろう!

【日時】11月1日[土]~7日[金]

【内容】葛飾北斎の作品を絵柄にした紙製バックを作ります。(なくなり次第終了)

こども子育てにやさしい休み方改革月間

【日時】11月8日[土]~30日[日]

【内容】こども連れの方は観覧無料

◆ ギャラリー・トーク

〈担当学芸員による展示作品解説〉

いずれも11:00~(30分程度)

◆ 10月11日[土] 歌川国芳I

◆ 10月25日[土] 古萩

◆ 11月 8日[土] 歌川国芳II

◆ 11月22日[土] 古萩

◆ 12月13日[土] 忠臣蔵

※ギャラリー・トークへの参加には観覧券が必要です。

※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。

臨時の休館やイベントを中止・変更する場合があります。

詳しくは当館ホームページをご覧ください。

お問い合わせ

TEL 0838-24-2400

URL <https://hum-web.jp/>



公式HP

表紙について

歌川国芳「東都名所 するがだひ」(部分) 横大判錦絵 天保(1830~1843)前期

国芳の代表的な風景画シリーズ10図のうち1図。雨上がりの空に大きな虹がかかる。神田川沿いの駿河台を歩く、2本差しの武士とお供は虹に目を奪われている。反対から傘を横に開き、傘を切りながら歩く人。谷の奥は神田上水(水道)の掛け樋が見える。着物や土手や植物は、「ぼかし」の技法で陰影を表現している。

交通アクセス

【新山口駅から】

■直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で
萩・明倫センター下車、徒歩約5分

■防長バス(約90分)で
萩バスセンター下車、徒歩約12分

【山口宇部空港から】[萩・石見空港から]

■萩近鉄タクシー(乗合タクシー)
約70~80分(利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】

■JR萩駅からタクシー約7分
■JR東萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約20分
■JR玉江駅から徒歩約20分

【自動車】

■「中国自動車道」美祿東JCT経由、
「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
■「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い



最新情報は公式SNSで



山口県立萩美術館・浦上記念館
HAGI URAGAMI MUSEUM

〒758-0074 山口県萩市平安古町586-1 TEL 0838-24-2400 FAX 0838-24-2401

URL <https://hum-web.jp/>

季刊「萩」 令和7年(2025)10月1日 通巻第117号 [発行]山口県立萩美術館・浦上記念館 山口県萩市平安古町586-1